

☆年間を通してとんぼ祭りを☆ 令和2年度とんぼ組

6月より廃材コーナーを設置し、自由に制作ができるという環境を作り、7月よりとんぼ祭りに向けて制作・準備を行なってきました。初めの頃は、制作というより廃材に触れる、保育士が作ったので遊ぶでしたがこの廃材で何を作ると決まっていな分、子どもたちもストローを切ったり、ラップの芯に絵を描く等、使いたい放題で楽しそうに表現していました。繰り返し廃材に触れていく事で「外で遊びたい」、「ガラクタ玩具で遊びたい」を越えて「制作したい」という声が増えてきました。綿に割り箸をさしてわたがし、花紙を丸めてリンゴ飴等を作り、少人数でお祭りごっこをしていた事がきっかけでお祭りごっこへと発展していきました。子どもたちを主に何の模擬店を出すかを決めていき、5グループに分かれました。とんぼ祭り制作の時間、何が必要かをまずは、グループ内で話し合い、保育士が子どもたちに必要な材料を聞いたり、完成形の写真を用意する等していきました。保育室にある材料を使って制作をしているのでなかなか形にならず・・・保育士が実際に材料を用意し、作ってみると子どもたちも「何を作ってるの?」、「私たちもこれで作ってみたい」等と言って興味深々で真似て作り始めていました。又、協力して誰が何を作るか決めて進めているグループと各自で制作を進めているグループとバラつきが見られました。ですが制作・準備を進めていく中で自然と子どもたちの中で「人が足りないから誰か手伝って」と協力を求めたい、「先生〇〇作りたいから〇〇が必要」等と自分たちで考えて取り組む姿が見られてきました。作り方がわからないとその場で諦めていましたがどうしたら良いか等を一緒に考えていく事でたくさんの失敗を繰り返し答えを導き出せるようになってきました。「お祭りは、暗いから電気を作ろう」、「前に色の付いたわたがしを食べた事あるから色を塗ろう」等、子どもたちの経験値からアイデアをどんどん出し、進めていきました。今までは、皆で同じ物を作るという事が多かったですが年間の制作を通して子どもたちの発想を主に進める事で子どもたちの発想力は、無限である事を改めて感じる事ができました。又、ゴミとなっていた廃材が今では、子どもたちの玩具の1つとなっています。後半、足りない物は、自分の家から持ってきてくれる子もいました。最初は、クラスだけでとんぼ祭りを行なう予定でしたが「皆がお店の人になって先生たちがお客さん」という事になり、前日に他クラスに案内のポスターを描いて持っていきました。当日は、たくさんお客さんに来て頂き、無事終了しました。「疲れたけど楽しかったね」と子どもたちも喜んでいました。「かぶとになったらかぶと祭りしたいね」と次の目標を持っているとんぼさんです。引き続き、廃材を使って自由に制作できる環境を整えていきたいと思います。